Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-08

青野原俘虜収容所研究と地域社会 ： 15年目の総括

大津留，厚

(Citation)
歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集,15:34-35

(Issue Date)
2017-01-29

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009734

2017 年 1 月 29 日
地域連携協議会
テーマ：青野原俘虜収容所研究と地域社会―15 年目の総括―
報告者：大津留　厚

はじめに

１、青野原―足下の世界史
　阪神淡路大震災と史料ネット

　「青野原」の発見

　足下の世界史
　　「箱庭」のハプスブルク帝国
　　捕虜収容所群島の東端としての日本の捕虜収容所体系

２、「青野原」の発信
2005 年、小野市と神戸大学の間で連携事業を進める包括協定締結
　青野原収容所に関する調査研究の成果を示す展示会
　展示会に合わせて、当時の演奏会のチラシに基づいて、捕虜たちが演奏した曲目を神戸大学交響楽団有志が再現
2006 年、神戸大学で展示会、演奏会を開催し、大学内で地域連携事業の成果を示す。
2008 年、小野市の全面的協力を得て、捕虜たちの故国の一つであるオーストリアの国家文書館で展示会を開催。神戸大学交響楽団有志による捕虜の演奏会の再演が国家文書館と軍事史博物館で行われた。
　ドイツの一市民から青野原で捕虜だった人の遺族から入手した 300 枚ほどの写真が提供される。
2009 年、東京で展示会。11 月 11 日から 21 日までの日程で在日オーストリア大使館内の展示場で開催。それに先立ち、11 月 7 日に東京青山にあるドイツ文化会館で講演会・演奏会。習志野の市民グループが習志野収容所で演奏された音楽を再演。
2011 年、小野市で展示会と演奏会。このころから捕虜収容所の敷地がある加西市の郷土資料室が精力的に調査を始めることになり、ドイツ市民から提供された写真が写された場所を特定する作業が急速に進展。
2012 年、加西市図書館で展示会。
2014 年、第一次世界大戦開戦 100 年を記念して、オーストリア大使館との連携による展示会、演劇、演奏会を神戸大学で開催。

2015 年、加西市が捕虜収容所開設 100 周年を記念して講演会、サッカー試合の再現などを行う。

東京のフランス国際学園で展示会、講演会

2016 年、京都のフランス国際学園で展示会、講演会

加西市、記念碑の設置、捕虜の手記の日本語訳の出版に向けて準備を進める。

奈良県立図書情報館で展示会、説明会

３、地域のオートノミー

加西市、第 2 次世界大戦時の鶉野の飛行場跡地も含めて「戦争遺跡博物館」への構想を進める。

研究のオートノミー

第一次世界大戦末期の東アジアにおけるハプスブルクの存在、非存在を通じて明らかになる中・東欧の再編

総括と展望

大学の教育、研究にとっての地域歴史遺産

地域にとっての歴史遺産

その接点を求めて

主要参考文献

大津留厚「収容所を生きる」山室信一、岡田暁生、小関隆、藤原辰史編『第一次世界大戦 第 2 巻　総力戦』（岩波書店、2014 年）。
大津留厚『捕虜が働くとき―第一次世界大戦・総力戦の狭間で』（人文書院、2013 年）。
大津留厚、奥村弘、長野順子『捕虜として姫路・青野原を生きる　1914-1919―箱庭の国際社会』（神戸新聞総合出版センター、2011 年）。
大津留厚ほか著『青野原俘虜収容所の世界―第一次世界大戦とオーストリア捕虜兵』（山川出版社、2007 年）。